

立命館大学大学院 法学研究科長 祝辞

立命館大学大学院法学研究科を修了されるみなさん、おめでとうございます。

ご存知のように、本学は、昨今の新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑み、2020年3月の卒業式・学位授与式の中止を判断いたしました。大変残念ではありますが、私たち教職員一同は、修了生のみなさんの門出を心より祝福しているということを最初に申し上げます。

みなさんは、大学院在学中、各自の研究活動を通じて日々研鑽され、高度な専門的力量を修得してこられました。その研究成果を学位論文という形で結実させ、そのことを自らの確信として、これまでに培ってきた力量をさらに深め、究めるために大学院後期課程に進学されたり、その力量を現実社会で活かすために民間企業や公務員に就職されたり、あるいは高度専門職として活躍される等、様々な進路に進み、活躍されるであろうと期待しております。

みなさんが法学研究科での研究活動を通じて身につけたのは高度な専門知識だけではないだろうと思います。多様な角度からものごとを客観的にとらえ、論理的に考察し、具体的に問題解決を図ろうとする実践的思考方法（リーガル・マインド）も、高いレベルで修得されたのではないのでしょうか。その視点をもって、新型コロナウイルスの感染に対峙している現在の日本の社会状況を観察するとき、様々な問題が具体的に見えてきたはずです。

例えば、身近な現象から日本がグローバル化社会に強く組み込まれていることを実感したという方も多いはず。中国から新型コロナウイルス拡大の報せが届いても、日本政府は直ちに入国制限をしませんでした。経済活動への影響を配慮したからです。外国人旅行者のインバウンド収入減を心配したというだけではなく、食品を含む多様な生産拠点の多くが中国にあり、サプライチェーンが国境を越えてはりめぐらされているのです。その象徴の一つが、マスクの払底です。日本国内ですべてのマスクを製造しているのではなく、約8割が中国の工場で作られているという現実を、多くの日本人は店頭からマスクが払底して気づきました。電子顕微鏡を使わないと見えないような微小なウイルスの脅威は、マスクの払底という目に見える事象を媒介することで、社会全体の隅々まで不安を増殖させたのです。さらにそれに連鎖して発生したのが、デマ情報によるトイレトペーパー等の買い占めです。マスクが店頭にないという現実が、紙製品のほとんどが中国で生産されており、輸入されなくなるというSNS上のデマ情報に説得力をもたせ、不安に駆られた人々を買い占め行動に走らせたのでした。

新型コロナウイルスの感染拡大は現在も進行中です。3月11日には、WHO（世界保健機関）事務局長が、パンデミックであると評価するような段階まで広がりを見せています。この問題に対する世界や日本の対応は、現代社会の弱みに係る重大な論点を多様な形で示しています。法学研究科で高度な専門知識とリーガル・マインドを修得されたみなさんには、現代社会の困難な状況を直視し、様々な観点から課題を発見し、それらを解決するために思考する力が備わっているはず。目に見えない巨大な困難に遭遇してしまった不運をただ嘆くのではなく、どんな事態から多くのことを学び、前向きに思考し、行動する。そのように、みなさんがこれからの困難な時代の主人公として、未来を力強く切り拓いていかれるよう願っております。

2020年3月21日

立命館大学大学院 法学研究科長

